

社会福祉法人ファミリーユ高知

2021年度 事業報告書

自 2021年4月1日

至 2022年3月31日

日中支援
夜間支援

※赤字：変更箇所

① 高知ハビリテーリングセンター

事業所名	事業名 (定員)	事業説明	ハビリの特長
障害者支援施設 多機能型→定員40名	自立訓練 機能訓練 20 生活訓練 10	自立した日常生活又は社会生活ができるよう、一定期間、身体機能又は生活能力の向上のために必要な訓練を行います。 機能訓練・・・1.5年間 生活訓練・・・2年間	機能訓練では主に病院退院後の身体・高次脳機能障害がある方に対して、継続したりハビリテーションと社会復帰に向けたアプローチを行います。生活訓練では知的・精神・発達障害がある方に対して生活の自律や社会参加、地域移行に向けたプログラムを提供し、特別支援学校卒業生の専攻科機能も有しています。 ※県内唯一の機能訓練事業所
	生活介護 10	常に介護を必要とする人に、昼間、入浴、排泄、食事の介護等を行うとともに、創作的活動又は生産活動の機会を提供します。	様々な障害特性を持つ方に対して、興味や関心が得られるその人らしい日中活動の提供に加えて、施設入所と協働して生活支援を行い、安心・安全な生活の実現を支援します。
	施設入所 40	施設に入所する人に、夜間や休日、入浴、排泄、食事の介護等を行います。	自立訓練への通所が困難な方や生活支援が必要な方に対して、心身の体調管理や食事・排泄・入浴等の介護、生活上での自立場面の増加などを目的に支援を行います。
	短期入所 (ショートステイ) 2 空床	自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で入浴、排泄、食事の介護等を行います。	施設入所の利用状況に合わせて事業を運営し、レスパイトが必要な家族のニーズに応え、地域生活の継続に寄与します。
アルベータ	就労移行 10	一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。(2年間)	職業訓練だけでなく、職場実習を通して実際の業務を体験する機会を大切に、ジョブマッチングを図っています。また、就職後のサポートを継続して行う事で就労を継続し企業との連携を大切に支援を行っていきます。
	就労定着支援	障害福祉サービスを利用して一般就労に移行した障害者が就職した職場で定着して働き続ける為に、必要な支援を行います。(3年間)	
	就労継続支援B型 40	一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。	
はるのハビリホーム	共同生活援助 (グループホーム) 36	外部サービス利用型の類型(介護サービスは委託契約を結んだ指定居宅介護事業者が行う)をとり、障害のある人が日常生活上の介護や支援を受けながら共同生活を送ります。	ホーム全体がバリアフリーとなっており身体障害者の方や様々な障害を抱えた方に対応できます。お部屋のタイプもユニットタイプ(居間・食堂など共有)とマンションタイプがあり、安心・安全な毎日を送っていただくように設備しております。
キュール	障害児通所支援事業 放課後等デイサービス 10	学齢期の障害児に放課後や長期休暇中の居場所を提供し、障害特性に応じた環境設定や自立を促進する為に必要な支援の提供を行います。	自然豊かな環境を活かし、室内だけでなく屋外でのレクリエーションを取り入れ、長期休暇中には外出支援や様々なイベントを企画し、余暇の充実を図っています。他事業との連携から、中高生を対象とした就労準備型としての取り組みを行っています。
相談支援事業所	2022年4月1日～休止	特定・・・ 障害者の自立した生活を支え、障害者の抱える課題解決や適切なサービス利用に向けてケアマネジメントをよりきめ細かく行います。 障害児・・・ 特定と同じですが、対象を障害児とします。	当センターの事業を利用している利用者のマネジメントができることでサビ管との連携がスムーズになります。当センターの利用希望をする障害者に対して、支給決定の参考となる書類を市町村窓口へ提出していくことで、利用開始までの流れがスムーズになります。

② しごと・生活サポートセンターウェーブ

事業所名	事業名 (定員)	事業説明	ウェーブの特長
オウんパス	就労継続支援A型 10	一般企業での就労に不安や困難がある障害者に、雇用契約に基づき就業の機会を提供します。(65歳未満)	地域の病院のユニフォームやタオル等のクリーニングを請け負っています。仕事をしていく中で自身の特長と向き合い、働き続けるためのスキルを学んでいます。クリーニング師の資格取得もすすめています。
スウェル	就労継続支援B型 40	一般企業等での就労が困難な障害者に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。	施設内では軽作業とクリーニング作業を行っており、施設外では病院周辺の清掃や地域の農家の方からの依頼を請けて畑作業やハウス作業なども行っています。また作業以外でも文化祭などの余暇活動なども行っています。
相談支援事業所		特定・・・ 障害者の自立した生活を支え、障害者の抱える課題解決や適切なサービス利用に向けてケアマネジメントをよりきめ細かく行います。	新規利用相談から利用開始までの流れがスムーズになり、ウェーブのサビ管との連携も取りやすく、より個々の希望に応じたサービス調整が行えます。

2021年度法人本部事業報告

第1回理事会

- 日 時 2021年5月24日(月) 18:00~20:00
場 所 しごと・生活サポートセンターウェーブ 3階地域交流ホール
議 題 監事監査報告
- 1 2020年度事業報告(案)
 - 2 2020年度決算報告(案)の件
 - 3 評議員選任解任委員会細則変更の件
 - 4 任期満了に伴う役員(理事・監事)候補者選任の件
 - 5 2021年度定時評議員会招集の件

定時評議員会

- 日 時 2021年6月10日(木) 18:30~19:30
場 所 しごと・生活サポートセンターウェーブ 3階地域交流ホール
議 題
- 1 2020年度事業報告の件
 - 2 2020年度決算報告の件
 - 3 役員(理事・監事)選任の件
 - 4 資金融資に伴う基本財産担保提供の件
- その他

第2回理事会

- 日 時 2021年6月10日(木) 19:30~19:40
場 所 しごと・生活サポートセンターウェーブ 3階地域交流ホール
議 題
- 1 理事長選任の件
 - 2 常務理事選任の件

第3回理事会

- 日 時 2021年9月14日(火) 18:00~18:40
場 所 しごと・生活サポートセンターウェーブ 3階地域交流ホール
議 題
- 1 2021年度1次補正予算の件
 - 2 役員等賠償保険契約締結の件
 - 3 高知ハビリテーリングセンター運営規程変更の件
 - 4 監事辞任に伴う後任候補者選任の件
 - 5 法人役員等旅費規程変更の件

6 2021年度臨時評議員会招集の件

報告事項

理事長：業務執行状況報告

臨時評議員会

日 時 2021年9月14日(火) 18:45~18:50
場 所 しごと・生活サポートセンターウェーブ 3階地域交流ホール
議 題
1 監事辞任に伴う後任監事選任の件

第4回理事会

日 時 2022年3月30日(水) 18:00~19:00
場 所 しごと・生活サポートセンターウェーブ 3階地域交流ホール
議 題
1 2022年度事業計画(案)の件
2 2022年度予算(案)の件
3 2021年度2次補正予算(案)の件
4 高知ハビリテーリングセンター相談支援事業(特定・障害児)休止の件
5 評議員辞任に伴う後任評議員候補者選任の件

報告事項

理事長：業務執行状況報告

評議員選任解任委員会

日 時 2022年3月30日(水) 19:00~19:15
場 所 しごと・生活サポートセンターウェーブ 3階地域交流ホール
議 題
1 評議員選任の件



しごと・生活サポートセンターウェーブ事業報告

センター長 沼 慶子

はじめに

前年度から続いている新型コロナウイルスのまん延によって、取引業者の売り上げ低迷による作業依頼の中止や減少、感染など様々な不安から利用者が出勤を控え、予定していた行事や企画、支援なども思うように実現できないことが続き、職員だけでなく利用者やその家族もコロナ疲れが見え始めた大変厳しい一年でした。ただ、そのコロナ禍でも、しごと・生活サポートセンターウェーブ（以下ウェーブ）に「おはようございます」と元気に出勤する利用者、「ウェーブへ行ってもらったほうが安心」と送り出してくれる利用者家族、その利用者のためにと様々な工夫を行い活動した職員、すべての方々の努力と支えでここまで歩んでこられたのだと感じております。また利用者が入居するホームや職員家族のコロナ感染などが相次いでいるなか、ウェーブ内で感染が拡大することなく現在まで活動できているのは近森病院と西岡センター長の感染予防指示と判断によるものであり“コロナ禍でも安心して働ける”ことが何よりも心強く感じた一年でした。

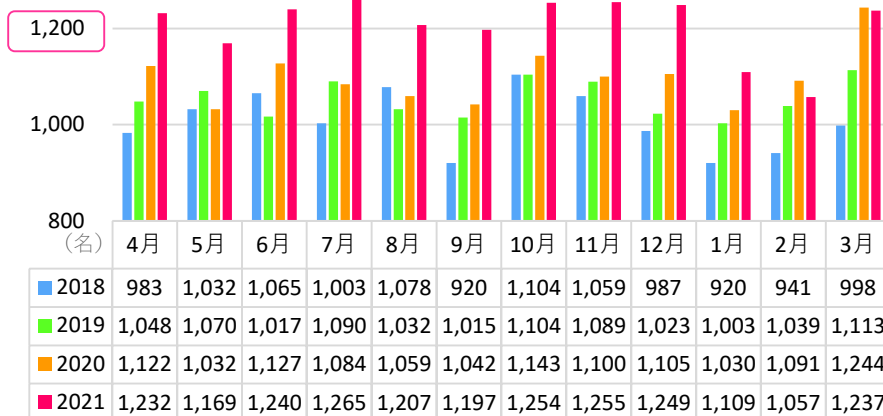
事業実績概要

ウェーブは昨年同様“月延べ利用者数 A 型 B 型合わせて 1,200 名”を目標とし取り組んできました。到達できた月は 8 回。（グラフ 1 参照）多くの利用者がコロナに負けることなく出勤できたことや利用者への丁寧なかかわり、工賃や賃金のもとである作業と作業収入の確保ができたことによる成果だと考えています。また、春野の農家とのお米作りやウェーブ内での野菜の育成、ステップアップを望む利用者への企業見学、農福連携マルシェへの参加など様々な取り組みができたことも大きな成果となりました。『北本町をわがまちに』を目標とした活動では高知市社会福祉協議会との研修会や北本町 1 丁目から 4 丁目の外周を利用者と職員でタスキをつないだマラソンは楽しみながら地域を知る良い機会となりました。11 月には文化祭の開催、その他各委員会での企画、それに伴うウェーブ新聞の発行などコロナ禍だからこそできることを実施し、年度末での利用者満足度調査では約 67% の利用者に総合的な評価として「満足している」という結果を頂いています。

働き方の見直し

2022 年度見直した点は職員が全員参加する会の撤廃、定時内での業務遂行の 2 点。職員の就業時間のうちサービス提供時間は 9 時から 16 時と就業時間の 9 割を占め、サービス提供中は支援や作業の点検、送迎、納品回収、委員会の活動も行う必要があり、職員会などの会議は時間外に実施してまいりました。それら時間外の会が職員の疲労感や業務の圧迫につながっていることが分かり、時間外での職員会と作業部会の会議を撤廃することを職員の総意にて決定しました。代替として月に 2 度それぞれの部署からより詳細な報告書資料を作成し共有すること、日中時間を十分に活用すること、必要時にはそれぞれで会を開催することとしました。また軽作業の開所日を平日に限ることで支援員を手厚く配置できるよう工夫もを行い、結果として 2021 年度は 2020 年度よりも約 268 時間の残業時間の削減が実現し、職員の疲労感や業務圧迫の軽減ができたと考えています。

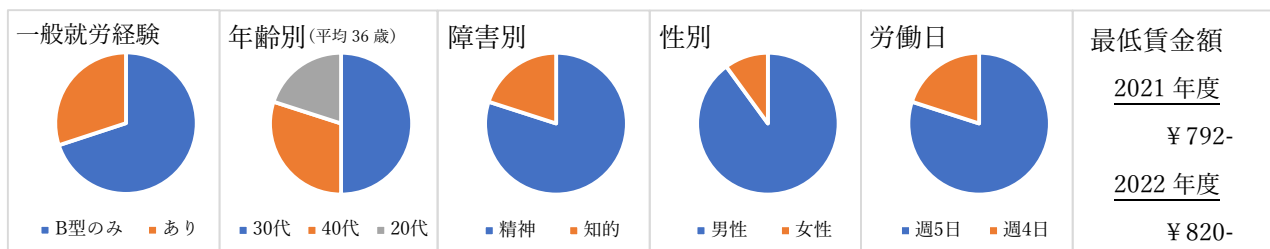
グラフ 1. A 型 B 型 月毎延べ利用者数（2018 年度～2021 年度）



職員数 12 名 (3月末時点)	センター長（相談支援専門員兼務） 1名 相談支援専門員（支援員兼務） 1名 サービス管理責任者（うち1名支援員兼務）2名 事務員（支援員兼務） 1名 支援員 7名																																				
会議等	作業部会と職員会は昨年10月から廃止 経営戦略会：1回/月																																				
委員会活動	委員会活動は基本的に利用者とともに活動することを主とし、必要に応じて研修会や集会を開催 虐待防止：マニュアルの整備、自己チェックシートと分析 工賃向上：平均工賃向上、作業収入と利用者工賃評価、作業の効率化 防 災：BCP作成、3ヵ月毎避難訓練研修の実施、自然災害時BCP 広 報：ふくらむ原稿、ウェブ新聞部発足 衛生美化：BCP作成とシミュレーション、感染予防、月毎健康チェック、KTK 美化設備管理、緑化美化、車両管理 就労チャレンジ：企業見学、職業センターとの研修、ウェブ外での作業調整 地域協働：施設外での就労の機会、地域貢献、地域 苦情解決：利用者からの苦情受付、利用者満足度調査の実施 教 育：年間教育計画、高知県市の研修企画、施設内研修企画																																				
年間行事	6月 ファミリー高知成果発表会 10月 きたほんまちマラソン 11月 文化祭 12月 表彰式																																				
職員研修	<外部研修、資格取得> 強度高度障害終了1名、精神障害者支援認定 1名 クリーニング師（OWNパススタッフ） 2名 高知県相談支援専門員初任者研修 1名 高知県相談支援専門員現任者研修 1名																																				
事故等状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事故レベル</th> <th>分類</th> <th>件数</th> <th>詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レベル0</td> <td>インシデント</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>レベル1</td> <td>インシデント</td> <td>29</td> <td>火傷6件/打撲3件/転倒6件/擦り傷3件 体調不良1件/事務2件/クリーニング5件/軽作業2件</td> </tr> <tr> <td>レベル2</td> <td>アクシデント</td> <td>3</td> <td>救急搬送2件/盗難1件</td> </tr> <tr> <td>レベル3</td> <td>事故（苦情）</td> <td>10</td> <td>クリーニング8件/軽作業2件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事故（業務過失）</td> <td>11</td> <td>クリーニング9件/軽作業1件/事務1件</td> </tr> <tr> <td>レベル4・5</td> <td>事故</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>感染症</td> <td></td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>車両事故</td> <td></td> <td>3</td> <td>OWNパススタッフ2件/職員1件</td> </tr> </tbody> </table>	事故レベル	分類	件数	詳細	レベル0	インシデント	0		レベル1	インシデント	29	火傷6件/打撲3件/転倒6件/擦り傷3件 体調不良1件/事務2件/クリーニング5件/軽作業2件	レベル2	アクシデント	3	救急搬送2件/盗難1件	レベル3	事故（苦情）	10	クリーニング8件/軽作業2件		事故（業務過失）	11	クリーニング9件/軽作業1件/事務1件	レベル4・5	事故	0		感染症		0		車両事故		3	OWNパススタッフ2件/職員1件
事故レベル	分類	件数	詳細																																		
レベル0	インシデント	0																																			
レベル1	インシデント	29	火傷6件/打撲3件/転倒6件/擦り傷3件 体調不良1件/事務2件/クリーニング5件/軽作業2件																																		
レベル2	アクシデント	3	救急搬送2件/盗難1件																																		
レベル3	事故（苦情）	10	クリーニング8件/軽作業2件																																		
	事故（業務過失）	11	クリーニング9件/軽作業1件/事務1件																																		
レベル4・5	事故	0																																			
感染症		0																																			
車両事故		3	OWNパススタッフ2件/職員1件																																		
苦情等状況	利用者3名からサービス提供についての苦情あり 内容：室内環境、支援員の行動、支援員の言葉遣い 検討結果：それぞれ検討会を開催し、3名の方への謝罪とともに対応策を提案させて頂き解決となっている。																																				

就労継続支援 A 型

■2021 年度利用者状況を可視化（登録者 10 名）



一般就労を経たうえで A 型を利用している方、B 型からステップアップで A 方を利用している方がそれぞれ利用し、年齢は平均 36 歳と若く一般の企業へ就職したいと希望されている方も数名所属している。精神障害の方が 8 割、慣れた環境や慣れた業務を行っていても不安感や気持ちの落ち込みが見られ、10 名雇用していることでの他者と自分との関係性や言動に悩みはつきないことも多く継続して勤務することは大変難しい。

■事故の多さ

今年は事故や苦情、インシデント報告書など併せて 27 件。ペン混入や納品間違い、軽度の火傷や裂傷などあり、再発防止のためマニュアルの整備や配置の工夫など対処を行った。

■作業の委託先

病院・クリニック：2 件 美容業界：1 件 整体：1 件 食品業界：1 件

■2021 年度の事業目標達成度を評価 『理想をかたちにしつづける ONE TEAM』

■10 名雇用の維持、退職者ゼロ

定員 10 名を確保し続けることができ、退職者なく 1 年度活動することができたのはオウンパスが始まって初めての快挙。

■品質向上にむけた取り組み

2021 年度は『品質向上』を掲げ、洗濯時や納品時の品質向上を目指し取り組んできた。ポケットの中身の確認抜かりや名前間違いなどは激減、プラスアルファの汚れ落としやプレス作業、環境整備などに力を入れることができるようになっている。

■スタッフの成長

10 名雇用の中でそれぞれの個性の違いに悩み、不安になり休みがちになることもあった ONE TEAM だが、3 回目のクリーニング師への挑戦で 2 名が合格、オウンパス独自のマイスター資格(全 3 種)の初制覇が 1 名、施設外就労への参加などを経て班長をはじめスタッフ一人一人が確実に成長できた。日々のクリーニング業はスタッフのみでこなすことができるようになっている。

■コロナ禍での協力

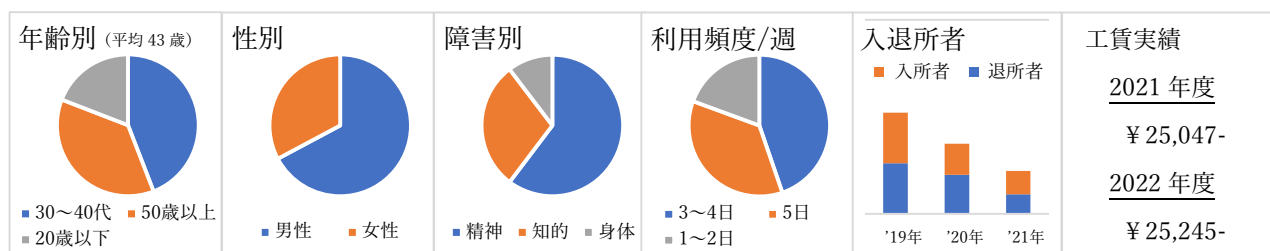
近森病院 CU 病棟等からの洗濯物を取り扱わせて頂いたことで、オウンパススタッフの中に変化が見られた。微力ながらコロナ禍で大変な医療現場に貢献できていることをやりがいに感じ、病院側のアテンダントとも早急かつ安全に洗濯物を納品回収できる方法などを協議し協力しながら業務をすすめることができた。

■総括

A 型としての役割を考えるきっかけとなった一年であった。A 型は企業への就職に結びつかない方が利用できる事業であり現在契約している 10 名の方の実情も同様である。ただ企業への就職を希望する方もいるため就職支援や実習などを企画し実施していたが、結果的に就職できるまでに至らず。加えて日頃の支援で手一杯になり力を注いでいないことも現状だった。そのため A 型の役割は B 型からのステップアップの受け皿的な役割？就労移行的な役割？など自分たちの役割、存在意義などに疑問が生じていた。2022 年度はあらためて A 型、その対象やその目的なども含め考え直し、『これが私たちの A 型』といえる礎づくりを行いたいと考えている。

就労継続支援 B 型

■2021 年度利用者状況を可視化（登録者 68 名）



JR やバスなどの公共交通の駅からも近い立地のため通所される方が多く保護者の送迎で通所される方は知的障害の方が主である。年齢は 18 歳から 73 歳までの方が利用し平均年齢は 43 歳。精神障害の方が多くこともあり症状に合わせた利用頻度となっておりデイケアなどの医療的ケアを併用している方も多し。入退院を繰り返し休みがちになってしまう中でも継続して利用できるよう支援員とサービス管理責任者、相談支援専門員が連携し比較的安定的な出勤率を確保している。

■利用者数

平日は利用者数が 40 名を超えており新規利用者を獲得できる作業スペースが確保しがたいことと現在契約している利用者が利用日を増やしたいと希望した際に増やせるよう利用率 125% を超えないよう調整していることから新規利用者は過去 2 年と比較して低くなっている。

■作業の種類

軽作業：紙エプロン、パッド、昆布、ハーネス、お菓子食品箱詰め、ダイレクトメール
 清掃：近森病院周辺、施設内清掃
 農福連携：みょうが、しょうが、きゅうり等
 クリーニング：病棟洗濯、個人洗濯

■2021 年度の事業目標達成度を評価 『ひとりひとりの思いをみんなで明日、かたちに』

■個別支援のうまさ際立った

スウェルの一番の実績は個別支援のうまさ。それにより出勤率と定着率は前年度以上にアップ。支援員一人一人の支援力に加え、様々な企画を提案し実現する力は利用者にも活力を与えている。

■平均工賃 25,000 円台を継続

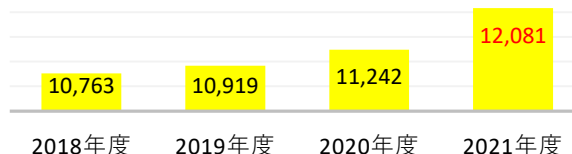
2020 年度と比較してコロナ禍で作業収入が 8 割程度となった中でも利用者への利益還元を第一に平均工賃 25,000 円台を維持。またほかの事業所にはない軽作業種の多さ、施設外就労や農福連携へ積極的に参加ができた。

2020 年度 全国 B 型平均工賃月額 15,776 円

2020 年度 高知 B 型平均工賃月額 20,310 円

■月延べ利用者 1,000 名越え

2021 年度の 12 ヶ月のなかで 1,000 名越えができたのは 9 回。過去 4 年間で最高水準となった。年間総利用者数も増加している。(右図)



■農福連携

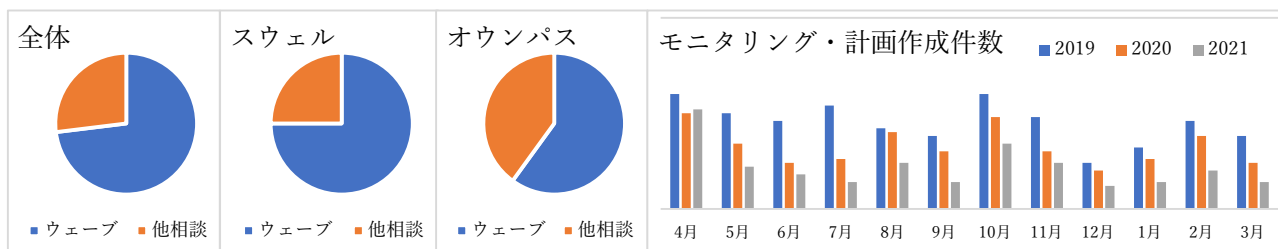
室内のみの作業から抜け出し、屋外で作業することであらたな利用者の魅力や能力を再発見することができた。また人と人とのつながりによっていろいろな業種の方の福祉や障害への理解につながった。

■総括

支援や作業確保に力を入れることができた反面、68 名の利用者ひとりひとりの思いをかたちにできたのか、そもそも全員の思いを聞いたのかという疑問が生じた。2022 年度は全員の思いをまず聞くことから始め、かたちにしていきたいと考えている。

特定相談支援

■2021年度利用者状況を可視化（登録者 57名）



ウェブを利用されている利用者 78名のうち 57名はウェブ相談支援事業所が担っている。2019年度から 2021年度の3年間をかけてウェブ以外を利用されている契約者は外部の相談支援事業所に依頼し、現在はウェブを利用している方のみ契約している。ウェブは精神障害の方が多いため医療との連携は必須であり、その他の障がいの方々も他のサービスやご家族との連携も必要となるため、相談支援事業所が同場所にあることは何よりも利用者の利益につながっており、支援員やサービス管理責任者と役割分担を行うことでより重層的な支援が実現できていると考えている。

■2021年契約者数

ウェブ利用者：78名中 57件

新規：1件（特別支援学校卒業生）

終了：ウェブ 4件、外部 14件

■2021年度の事業目標達成度を評価 『みんな輝け、にじいろ応援団』

■同事業所にある利点

相談支援事業所が他相談事業所の場合、生活や仕事面での相談や困りごと、サービスの申請などウェブ相談事業所ほどタイムリーに動くことができないため、ウェブ内に相談支援事業所があることは利用者にとっても支援者にとってもかなりの利点である。

■業務の遅れなし

相談支援専門員 2名と事務で月に 2、3回の進捗確認会を実施することで業務の遅れは全くない。また検討すべき利用者についてもその会で実施している。常に他機関との連携なども確認を行いながらできる限りタイムリーに対応している。

■頼られる存在

就労のサービス調整だけでなく医療やグループホームとの連絡調整、利用者の希望に応じた見学や体験の調整なども実施。利用者のにじいろの希望に対して制限をかけず対応できた。ようやく相談支援専門員という役割が利用者のなかに浸透し始めている。

■スーパーバイズの視点

現場の支援者や家族が支援方法や考え方に行き詰ってしまった際には支援の専門員として常に権利擁護と虐待防止の視点をもちながら共に考えることができた。また障害特性を学ぶ研修にも参加し常に自己研鑽を重ねることができた。研修修了：強度行動障害支援、精神障害支援

■総括

契約者数が減ったことにより利用者との丁寧な接することができ、何より心の余裕ができた。コロナ感染者が急増する時期には担当者会や自宅訪問ができないこともあったが、ウェブの利用者のみであったため作業にきている時間を利用してサービスの調整を行うことができた。相談支援専門員の役割は一言で表現することは難しいが、利用者や家族、支援者が困っている時にはできるだけ早く気づき、手をつなぎ、共に考えることだと思う。数値として残る成果は少なく、やり遂げたという達成感を得られにくい職務だが、福祉を考えるうえでは大変重要な役割を担っていると感じている。



高知ハビリテーリングセンター 事業報告

センター長 西岡由江

はじめに

2021年は、長引く新型コロナウイルス対応で思うように動けなかった1年であったように感じます。感染症対策は、近森病院の協力を受け、感染対策委員会を中心にBCP策定と職員研修の実施、発熱者の初動対応の徹底にてクラスター発生もなく事業を継続することができました。また、ご入居者、ご家族、通所利用者のみなさまには、面会制限や行動制限などの不自由をおかけしましたが、ICT導入を試み、施設入所ではリモート面接、就労系ではテレワークを視野に入れた在宅支援を導入、職員研修ではeラーニングを用いることで時間や場所を問わず効率的に学習に取り組むことができました。また、自然環境を活かし中庭でのテイクアウトランチを企画、提灯アートで癒しの空間を演出するなど苦境をプラスに転化させる「逆転の発想」を取り入れた1年であったと思います。

(右表1を参照頂きながらお読み下さい)

事業実績概要

2018年9月のセンター長交代からこの4年間で、組織体制の見直しと事業縮小(委託事業終了)、業務改善、支援力強化、人員不足の解消に努め、現実に即した業務形態(定員変更/類型変更など)への移行を行いました。特に支援力強化においては、看護師、理学療法士、作業療法士の採用を行い、専門的視点からの評価と支援員の教育に努め、多種多様な障害に対する受け入れが可能となる基礎作りを行いました。高知ハビリテーリングセンター(以下、ハビリ)の新生を掲げこれからという時に、コロナ感染に起因する新規相談の減少やサービス利用控えが発生し、目標としていた稼働率の達成ができませんでした。しかし、徐々に相談件数や見学依頼などの問い合わせは回復してきており、ウィズコロナ時代における生活様式に対応し、事業活動の継続並びに利用者支援の更なる充実を図りたいと考えています。

【障害者支援施設】

施設入所の稼働率が上がらなかったのは、コロナ感染対策により短期入所(ショートステイ)の受け入れができなかったことが要因と考えられます。有期事業での運営のため稼働率の変動はありますが、2019年に定員変更し、病院や相談支援事業所等への営業と入退所管理(ベッドコントロール会の定期開催)をすることで計画的な入所者管理ができるようになってきました。来年度は生活介護利用者が定員に達する予定であり、短期入所も感染状況を鑑みて利用開始することで稼働率が上がる予定です。

【アルベータ就労支援事業】

B型事業は、2020年10月に定員(50名から40名へ)変更し、同時に利用者の就業時間・工賃評価・定年制度の見直しをすすめ「働いて稼ぐB型」を目指す基盤を作りました。就労内容も内職的な作業を継続しつつ、施設外就労(長浜公園清掃・高知競馬場清掃)や農福連携事業への手上げにより工賃アップが図れ、2021年度工賃実績20,376円(前年度+4,519円)を達成することができました。就労移行は、これまで定員を上回る稼働で紹介が途切れることはありませんでしたが、コロナ禍において紹介が全くない状況が発生し、一時稼働率50%を切ることがありました。しかし、オンラインを使った情報発信や継続的な営業にて稼働率は回復しています。また2019年より開所した就労定着事業も業績を伸ばし、繋いだ就労先での継続雇用の実績が上がっています。

表1. 高知ハビリテーリングセンター 1ヶ月あたり平均延利用者数・年間平均稼働率(2018~2021)

事業所名	障害者支援施設					アルベータ			はるのハビリホーム	キュール	相談支援事業所	
	①施設入所	②短期入所	③機能訓練	④生活訓練	⑤生活介護	⑥就労B型	⑦就労移行	⑧就労定着	⑨共同生活援助	⑩放課後等デイサービス	⑪特定相談	⑫障害児相談
定員	40名	2名+空床	25名	9名	6名	50名	10名	定員なし	36名	10名	定員なし	定員なし
2018年度	延利用者数	1033人	426人	178人	155人	1443人	257人	—	1024人	261人	30人	8人
	稼働率	84.9%	69.1%	80.8%	93.5%	111.4%	108.3%	—	93.5%	102.5%	—	—
	変更内容	・センター長交代 ・委託事業の終了(高次脳機能障害支援普及事業、若年性認知症就労支援事業)										
2019年度	延利用者数	709人	定員変更20名 286人	定員変更10名 117人	定員変更10名 135人	1281人	247人	3人	1006人	251人	26人	6人
	稼働率	58.1%	54.3%	48.9%	81.5%	99.8%	103.4%	—	91.7%	97.3%	—	—
	変更内容	・7月~定員変更(機能訓練、生活訓練、生活介護) ・10月~就労定着支援事業開始										
2020年度	延利用者数	869人	402人	185人	128人	定員変更40名 1140人	229人	8人	853人	233人	15人	2人
	稼働率	71.9%	89.5%	81.3%	56.8%	98.3%	104.9%	—	78.0%	88.3%	—	—
	変更内容	・10月~定員変更(就労B型)										
2021年度	延利用者数	878人	355人	195人	146人	1,092人	179人	1,092人	類型変更 827人	267人	15人	
	稼働率	72.1%	78.9%	86.7%	64.9%	104.9%	79.8%	—	75.5%	103.5%	—	
	変更内容	・4月~類型変更 グループホーム「外部サービス利用型」										
2022年度	目標稼働率	80.0%	80.0%	90.0%	80.0%	110.0%	85.0%	—	80.0%	110.0%	休止	休止
	変更内容	・2022年4月~特定相談休止										

【はるのハビリホーム】

2021年4月より外部サービス利用型に類型変更し利用者が安心・安全に生活を送れる環境を整え運営を行ってきました。高齢を迎えられた方、念願の一人暮らしを達成された方、異性との逸脱行為にて他のグループホームに変わった方など退所者7名を見送りました。新規入居者は20～40代の若い知的障害者や精神障害者が入居を希望され、体験利用を経て5名が入居されました。3月末時点で空床7室を抱えていますが待機者3名がおり、問い合わせもありますので随時入居判断を行い満室にしていく予定です。

【キュール】

放課後等デイサービスの稼働は、コロナ感染拡大の影響で休校や通所の自粛が続きましたが、感染対策の徹底と学校やご家族との連携にてコロナ禍であっても安心して利用できる環境を整えることで過去最高の稼働率となっています。

表1、2022年度目標稼働率は、実現可能な稼働率として2021年度実績から2022年度の目標稼働率を導いています。決算上では、法人全体で2020年度-1,200万円、2021年度-3,100万円の赤字となっていますが、支援サービスの質の向上をはかり、利用者を安定的に確保し、収益を向上させるよう努力いたします。

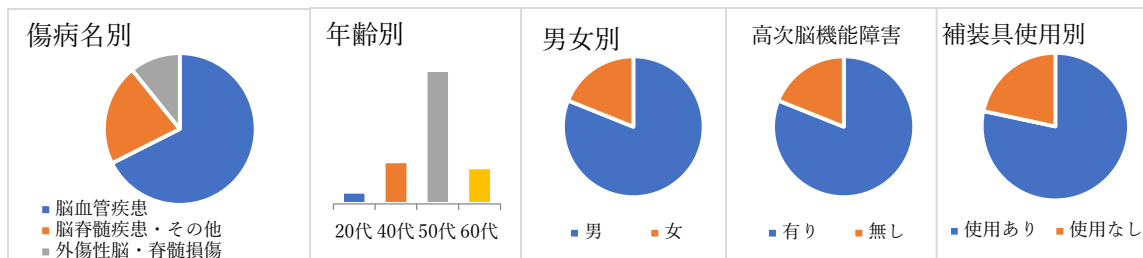
組織運営

3部門（9事業）の部長直轄の運営が定着し、意思決定や緊急時の対応など業務がスムーズに遂行できるようになりました。しかし、3月末に開設当初から障害福祉サービス事業に係る基準や報酬管理などを担っていただいていた蒲原部長が退職され、組織運営するうえで大きな痛手となりました。そこで、しごと・生活サポートセンターの中越副センター長に、ハビリの副センター長として3月から着任いただき、アクティブなリーダーシップとマネジメント力にて組織管理に力を注いでいただいています。さらに、慢性的な人材不足が続いており、3月末にて一旦「特定・障害児相談支援事業」を休所する判断をしました。再開を望まれる声も多く聞かれている為、人材不足解消により事業再開を目指していきたいと考えています。

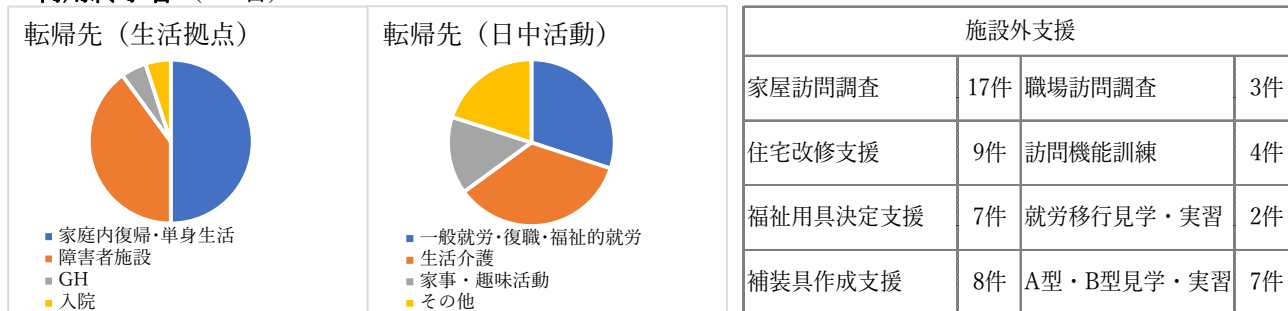
2022年度は、ハビリのビジョンから落とし込んだ法人が目指す職員像「誰かの人生について本気で考えられる人」を掲げ、全職員の実践・事例発表を計画、さらに4年前に作成した各事業のマインドをブラッシュアップする予定です。障害者福祉事業の経営は、年々厳しさを増しています。厳しい環境の中でもハビリ職員ワンチームで、経営能力を高め、多様化するご利用者のニーズに寄り添い、地域に貢献し、働きがいのある職場を実現することで、新たな福祉経営の確立を目指し取り組んでいきたいと考えています。

機能訓練

■2021 年度利用者状況を可視化（登録者 37 名）



利用終了者（20 名）



利用者の 66%が脳血管疾患による障害を後遺された方で、50 代の男性が多く、利用者の約 81%の方が高次脳機能障害を有しています。また、利用者の 78%が車椅子などなんらかの補装具を使っています。病院とは違い、地域生活を想定した社会生活能力向上の訓練プログラムや施設外支援を充実させ、ご本人が望まれる生活場所（単身生活・家庭内復帰率 50%）や日中活動（福祉的/一般就労率 30%）に繋がっています。

■新規利用者数：計 11 名（施設入所 9 名、通所者 2 名）

■新規相談のうち繋がらなかった理由

高齢（65 歳以上） 3 件、送迎サービスの対応困難 1 件、医療的ケア対応困難のため 1 件
 移動の安全配慮面での対応困難 1 件、重介助状態による対応困難（四肢完全麻痺） 1 件

■2021 年度の事業目標達成度を評価 『自立生活と本人の望む社会参加を支援します！』

■自己決定ができる訓練プログラムの提供

歩行状態の動画を撮影し利用者自身に確認してもらうことで訓練成果を実感できるように努めた。また、必要な時期に適宜面談を実施し、プログラム内容や方向性の決定など、利用者自身の自己決定を大切にする支援を実践した。

■自立生活の獲得を支援

以前は機能訓練スタッフのみで行っていた家屋訪問に入所スタッフの同行を依頼し、退所先における生活課題を共有した。また退所後の生活で発生する様々な問題に対するフォローアップとして訪問機能訓練を行い、初期の生活面の安定を支援した。

■地域生活や就労に繋げる支援力強化

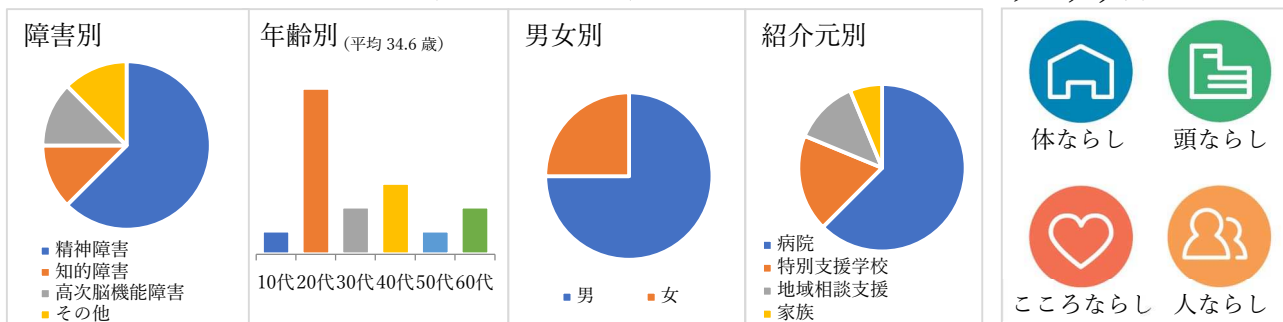
担当制を導入することでスタッフの責任感が増し、利用者の個別性に合わせた支援を実施することができた。機能訓練室内には就労継続支援 A 型・B 型事業所一覧の冊子を作成し、実際に見学・実習を経て利用に繋ぐことができた。

■総括

本年度は様々な支援において「入所スタッフとの協働」を意識し、転倒対策や入浴・掃除・洗濯などの評価・訓練を現場で実践することで、利用者の実生活をリアルに想定した支援を提供した結果、半数以上の方がふさわしい地域生活に繋がったと思います。新規相談のうち利用に繋がるケースは 2 割程度にとどまっており、6 月以降の稼働率も 70%台にとどまりました。紹介元の医療機関等に、それぞれのケースの経過報告を丁寧にお返しすることで、新たな新規利用者に繋がるよう努めます。

生活訓練

■2021年度利用者状況を可視化（登録者数16名）



特別支援学校から紹介いただいた若年の脳性麻痺と筋ジストロフィーの利用者以外は、身体機能が自立している精神障害者と知的障害者、高次脳機能障害者が利用されています。年齢も10代～20代が半数を占めており、若い男性が多いのが特徴です。4つの「ならし」を軸に様々なプログラムを提供し、社会生活力の向上につなげています。

■紹介元（新規相談：31名、内利用に至った方:5名）

特定相談事業所:9名 病院:7名 家族5名 行政:5名 支援センター:3名 特別支援学校2名

■新規利用者の傾向

去年に比べ相談件数は増えましたが、利用開始に至るのが2割程度です。知的障害の若年者の方の相談が増えている。利用期限があることや、家族・支援者と当事者の意向が合わなかったことが理由で利用につながらないことが多い。

■利用終了者（8名）

日中支援 就労移行:1名 就労継続支援B型:3名 復学:1名 生活介護:1名 施設活動:1名
一般就労:1名

夜間住居 グループホーム:4名 施設:2名 自宅:2名

■2021年度の事業目標達成度を評価 『実生活で活かされる能力の獲得を支援します！』

■障害特性に合わせたプログラムの充実

掃除・健康・整容・金銭管理など生活に必要な技術について座学や実践を行いました。

■訓練室外での活動を充実

毎日散歩を行い、移動・歩行訓練を行っています。畑作業では植え付けから収穫、調理までを計画的に行っています。コロナ禍のため、公共交通機関利用の外出訓練は2回しか行えませんでした。計画・実行・振り返りを通じ個人の課題が明確になりました。

■地域のニーズに準じた事業運営

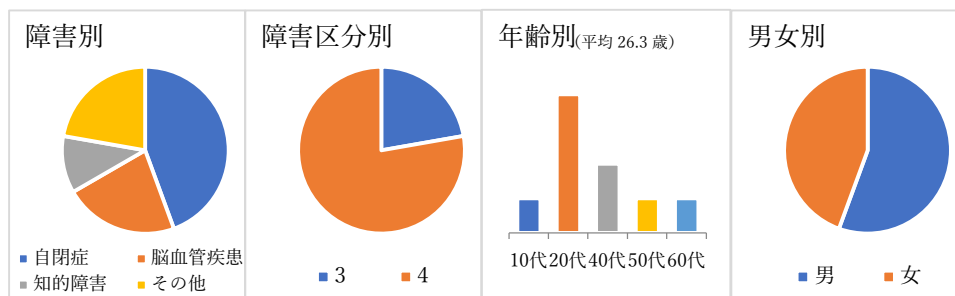
稼働率は年間86.7%でした。問い合わせでは生活訓練以外のサービスが適切な方も居たため他事業に繋ぐ役割も担いました。

■総括

様々な年齢、障害をもつ利用者の課題に対して、生活技能やコミュニケーション能力が向上するプログラムを提供した結果、自主性が高まり、実生活でも変化が見られています。前年度までの課題であった稼働率も7月以降は概ね90%を超えました。データを見ると問い合わせから入所に至るのは1割程度ですが、1件1件丁寧に対応することで、次の問い合わせに繋がっているように思います。退所者の日中活動では復学や就労移行支援・就労継続支援B型への移行が半数を超えています。一方で生活介護や救護施設が転帰先になった方も居ます。年齢や障害、ご本人の希望などを鑑み適切な場所への移行を行いました。

障害者支援施設 生活介護

■2021 年度利用者状況を可視化（登録者数 9 名）



自閉症で強度行動障害を伴っている利用者が半数を占めており、障害区分も 3~4 と日常生活への介助が必要な方が多く入所されています。洗濯・掃除といった家事支援や創作的な活動、散歩や運動など個々の特性を活かした個別支援を心掛けています。コロナ禍でしたが、こだわりの強さやスケジュール変更が苦手な特徴をもっている利用者が多いため、外泊を禁止とせず家族の感染対策の協力のもと継続して実施し、安定した生活が送れるよう支援を行いました。

■2021 年度具体的目標達成度を評価 『安心・安全な生活の実現を支援します！』

■個性を重視したオーダーメイド支援

家族と連携し個々に合わせた 1 週間のスケジュールを作成

提供課題：プリント課題・手指訓練・運動プログラム・折り紙・イベント時の作品作り
パソコン・居室清掃等

コロナ感染対策中においても自閉症の利用者 3 名は毎週外泊をルーティン化へ

■施設内活動の充実

9 月より職員配置換え、入所職員が日中支援を実施。農作業・公園清掃は中止

⇒食堂を活動場所に変更し、室内での活動プログラムを個々に作成

家族の運動を取り入れて欲しいとの要望により、5 月から散歩プログラムを開始

⇒月/水/金に施設周辺 2 周、雨天時は館内歩行訓練を開始し、体力向上を目指す

12 月お楽しみ外出訓練(桂浜水族館へ外出)

■通過型支援としての在り方を提案

その人らしさが発揮できる場所へ繋ぐ。

⇒かかがみの育成園へ申込み 1 名/就労継続支援 B 型への希望・面談 1 名

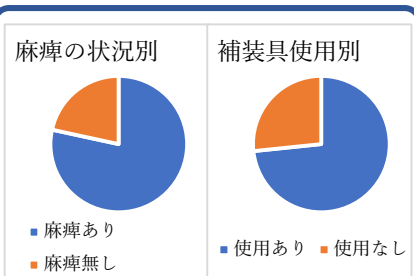
■総括

いつもの場所で、いつものように安心・安全な生活の実現に向け、障害特性に合わせた個々のスケジュールを作成しました。家族との連携も外泊日誌や、電話連絡、面談などを取り入れ利用者の特徴に合わせた生活が出来るよう提案出来た 1 年であったと思います。9 月より入所一体化の支援に変更し、農作業・公園清掃などの外作業を中止しましたが、屋内での個別プログラムを強化したことで落ち着いて取り組むことができている。12 月には、生活介護利用者の初めてのお楽しみ外出訓練を実施。多くの協力のもと安心・安全に桂浜水族館見学に参加できたことは大きな出来事でした。運動プログラムや栄養指導を取り入れたことで体力の向上や肥満予防の効果も出てきており体調管理面への支援ができたと思います。今後も利用者個々の特性を理解し、利用者にあったオーダーメイド支援を継続し、より良い生活の実現に繋げていきます。

障害者支援施設 施設入所

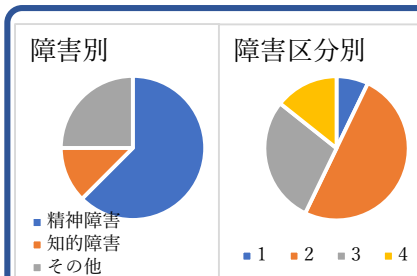
■2021 年度利用者状況を可視化

機能訓練（登録者 37 名）



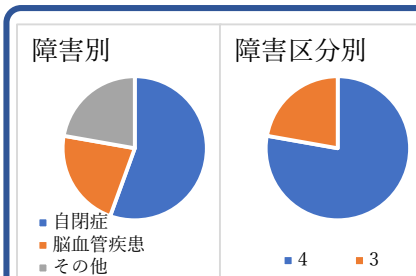
麻痺があり、補装具をつけた状態でも、排泄ケアや移乗動作・入浴支援などを通して得た評価を次につなげる視点を大切にする

生活訓練（登録者 16 名）



精神障害や知的障害による未熟な生活能力を、小さな成功体験を重ねることで出来るに変え、自信と希望を見出す支援を提供。

生活介護（登録者 9 名）



自閉症など、コミュニケーションを取る事が難しい方が多く、日常生活の支援は勿論、その人らしさが発揮できる取り組みを提供。

■2021 年度具体的目標達成度を評価 『退所先の生活にリアルにつなげる支援を行います！』

■退所先の生活をリアルに想定

機能訓練職員と協働し家屋訪問調査や、入院中の利用者の見学などに同行参加。

⇒評価と課題の共有が日常生活動作支援につながり、24 時間支援の強みを強化。

■ケアの統一を図り利用者の自立を促進する

入浴介助浴から自立が可能となる利用者が増加。個浴利用時間枠の拡大。

⇒大浴場を利用し自立浴ができるように開放する。（10 枠⇒15 枠使用可能となる）

24 時間シート作成の統一

⇒深夜帯のオムツ交換を、定時の交換だけではなく退所後に自身や家族が行うことを想定し、個々に合った吸収量の多いパット、排泄用具などの方法をその都度検討した。

■各部署との連携支援

転倒時には機能訓練職員と一緒に評価を実施し、褥瘡や熱傷などの皮膚創傷変化には定期的なラウンドチームを形成しチームでかかわることができました。

ハビリの広大な環境に対して職員全員で施設の美化活動に参加。

■資格取得サポート

介護福祉士国家資格取得 1 名

甲種防火管理新規講習修了 1 名

リハビリテーション・ケア合同研究大会兵庫 2021

「自分の思いを実現するために～可能性を広げ自分らしく生きる～」発表

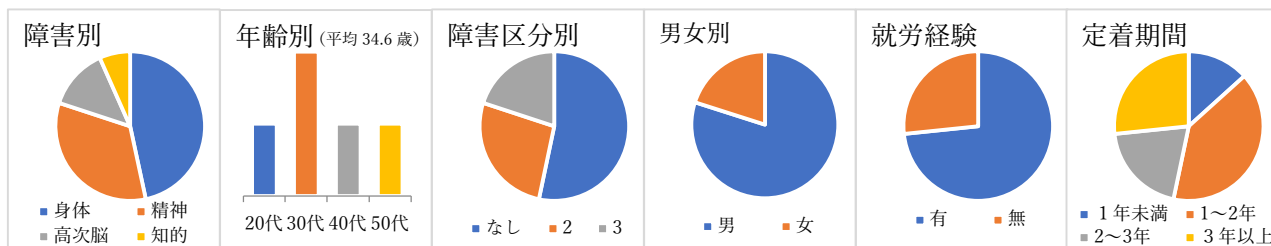
■総括

有期のある事業が中心のため定期的なベットコントロール会を実施し、有効な部屋の入退所管理を実施しました。病院や地域の相談事業所などからの問い合わせに対して丁寧な対応を心掛け、体験利用を取り入れ、目標の共有や評価の時間をとることでスムーズな受け入れができるようになりました。短期入所はコロナの影響にて実績はなく、感染状況をみて再開を予定していきます。退所先の生活場面（家屋訪問・施設見学・病院見学・職場等）に入所支援員が同行することで、リアルな生活状況を見ることができ、日々の支援を見直し提案できるきっかけとなりました。また、施設入所・生活介護支援が一体化し、障害特性について考えることも多く学習する機会が増えています。今後も多様な疾患や障害に対応できる障害者支援施設として、職員全員が学び、考え、利用者の希望を叶える事業所を目指していきたいと考えています。

就労移行支援・就労定着支援

■2021年度利用者状況を可視化（登録者数14名）

就労移行支援



就労定着支援

身体障害者及び精神障害者が多く、平均年齢 34.6 歳と若い男性が多いのが特徴です。就労経験のない方もいらっしゃいますが、職場体験実習を多く取り入れて様々な働く場面を経験し、障害を持ちながらも自分らしく働くことへチャレンジしています。また、就職したあとの定着支援を導入し、勤務する際の課題を把握し、問題解決に必要な支援を行っています。

■紹介元（新規相談：15名、内新規利用者：9名、Web 問い合わせ：8名）

就労促進員：1名 ハローワーク：1名 特定相談：3名 ブランチ：1名 市町村：1名
学校：1名 当センター他事業（自立・B型）：3名 家族：2名 本人：2名

■新規利用者の傾向

これまで関わりのある関係機関からの紹介や当センターからの移行、過去に利用していた利用者の再利用がありました。障害、年齢層ともに様々ですが、若年層の相談が増えてきています。

■新規相談で繋がらなかった理由

断ったケースは無し。服薬や耐久性、生活リズム等が定着していない利用者（2名）は当センター生活訓練に相談を移行。大学在学中や大学卒業後の引きこもり状態で家族から相談があった2名、精神障害で調子を崩された1名は、見学後、利用希望には至りませんでした。

■利用終了者

一般就労（就職先：行政機関での事務補助業務）：3名

■2021年度の事業目標達成度を評価 『障害者一人ひとりが活躍できる社会に！』

■職場開拓・稼働率維持

新規職場開拓 職場見学：10社、職場実習：4社（内新規：2社）

稼働率：49%～104%

■就職率・職場定着率の維持向上

就職率：100%

職場定着率 就労移行6ヶ月定着率：100%、就労定着：93%

■支援力強化

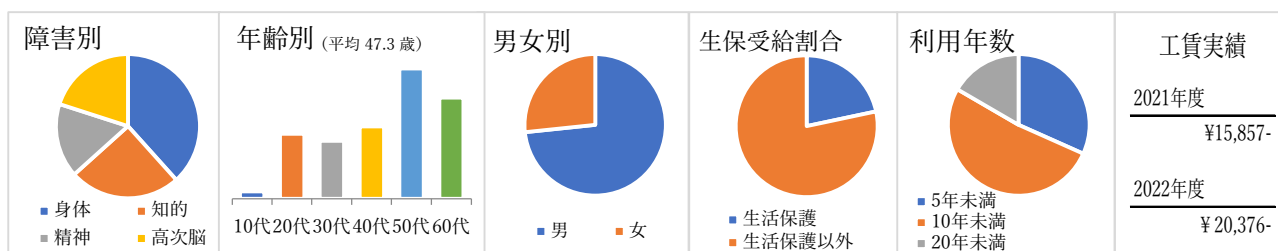
オンラインOB会実施、10月より在宅訓練開始、障害者職業センター講習受講

■総括

コロナの影響もあり、上期は新規利用者数が伸びず、これまでの営業活動を継続しながら新たなニーズの発掘を目指し、WEBでの広報（リタリコ）も開始しましたが、利用には繋がりませんでした。実績としては、これまで関わりのあった職場や関係機関と連携しながら、就職率は維持しましたが、体調不良による離職があり、定着率は100%を切る結果となりました。コロナ禍で例年通りに実施出来ない支援もありましたが、オンラインOB会の開催やリモートで在宅訓練を導入する等、今後の支援に繋がる新たな組みを開始する事が出来ました。

就労継続支援 B 型

■2021 年度利用者状況を可視化（登録者 60 名）



バリアフリー環境と送迎サービスを利用し、様々な障害者が通所されています。働き盛りの男性が多く、利用開始から 5～10 年継続して通所されています。室内軽作業から施設外就労まで常時 39 社との取引があり、障害特性に合った様々な仕事を提供し、障害があっても諦めない支援で、ひとり一人の働き方をサポートし稼ぐ喜びを共に感じています。

■紹介元（新規相談：23 名、内利用に至った方：3 名）

就労促進員：2 名 医療機関：2 名 特定相談：10 名 ブランチ：1 名 特別支援学校：2 名
市町村：4 名 当センター他事業（自立）：1 名 家族：1 名

■新規利用者の傾向

身体障害の割合が減少し、知的障害や精神障害の利用相談が増加傾向となっています。

■新規相談で利用に繋がらなかった理由

利用に繋がらなかったケースの大半は利用日数（週 3 日以上）がニーズと合わず。その他、学生や入院中、サービス検討中等により将来的な利用に向けた相談で具体的な利用に至りませんでした。

■利用終了者（8 名）

生活介護：1 名 介護保険：1 名 就労移行：1 名 他 B 型：2 名 自宅：2 名 施設：1 名

■2021 年度の事業目標達成度を評価 『利用者とともにスキルアップ出来る職場へ！』

■協力し合える職場づくり

ジョブローテーション、他科や他業務への参加：8 名 → 20 名

■スキルアップと工賃アップ

工賃評価システムの見直し（2021 年度平均工賃実績 20,376 円 前年度比 +4,519 円）

新業務：5（新取引先：2 広瀬農園、トライ）

■社会人として楽しむ

食事を楽しむイベント、カラオケ大会：夏・冬 2 回実施

■総括

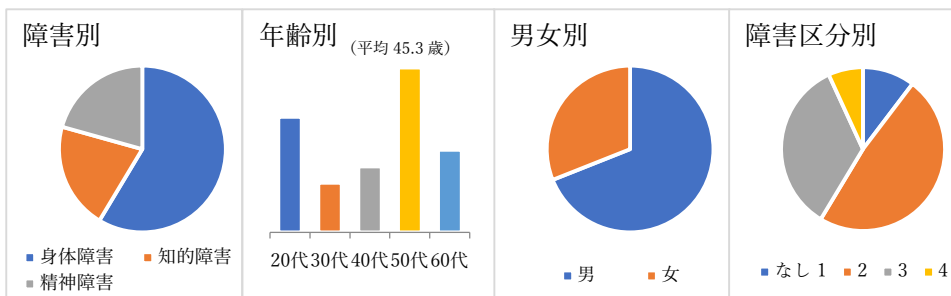
今年度は、長浜公園清掃、中庭清掃等を開始し、これまでの競馬場清掃、お掃除隊に加え、施設外就労を拡大し、新たな就労機会と売上アップを図りました。今後さらにスキルアップを図り、将来的には他施設（障害者スポーツセンター等）の清掃業務の受託を目指したいと考えています。また、工賃評価表を抜本的に見直し、利用者一人ひとりの強みを数値化する事で、支援員が相対的に評価を行い、目標工賃を大幅にアップする事が出来ました。工賃評価表と支援計画を連動させる事で利用者自身の課題や目標が具体的になり、遣り甲斐にも繋がられています。

B 型の在り方検討を開始した 3 年前と比較し、障害種別割合は変化していますが、障害支援区分に大きな変化は無く、重度の利用者も継続して働いて頂いています。そんな中、大幅な工賃アップを達成出来たのは、所属科を超えた利用者同士の協力や新たな作業へのチャレンジ等、利用者一人ひとりの就労に対する意識が変化した結果と考えます。

はるのハビリホーム

■2021 年度利用者状況を可視化（登録者数 29 名）

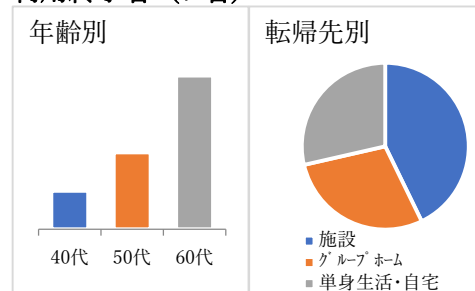
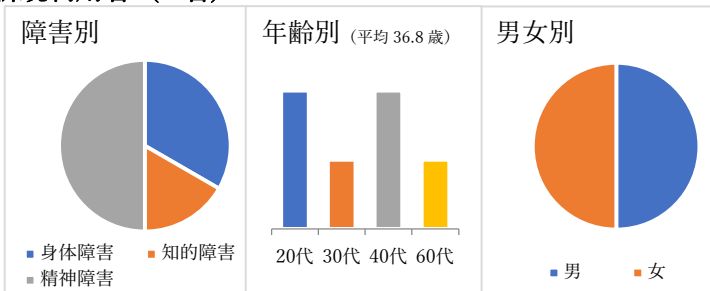
新規相談先（24 件）



特定相談	5
市町村	5
ハビリ内	5
家族	5
医療機関	4

新規利用者（6 名）

利用終了者（7 名）



バリアフリー環境を有しているグループホームである為、身体障害者が多く入居されています。その多くが高齢化を迎えており、身体機能低下にて障害者支援施設や高齢者施設へ移られています。新規利用者では若い精神障害者が増えており、医療連携と病状理解に努め障害特性に合わせた支援を提供しています。

■2021 年度の事業目標達成度を評価 『安心・安全と充実を提供できるホームに！』

■説明と同意

「外部サービス利用型」への説明と同意：利用者の状態を評価し、該当者には担当者会を実施し、混乱なく外部サービスを導入できた。（入浴を外部に委託し、3 名の利用者が利用）

■支援の質の向上

月 1 の世話人会・ユニット会を開催し、情報共有と統一した支援を実施。
 日々の健康状態の観察の導入と医療連携の強化⇒病状悪化時の早期介入が可能となった。
 コロナウイルス感染対策として、できる限りの不要不急の外出・外泊の自粛の呼びかけと、ご家族の協力依頼、標準感染対策にてコロナウイルス感染者 0 で乗り切ることが出来た。

■地域で暮らす楽しみを発掘

外出支援を計画したが、感染対策を優先し実施することが出来なかった。

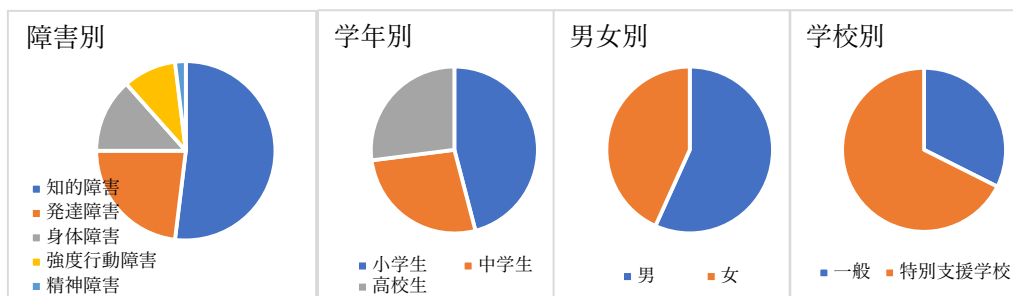
■総括

今年度は、類型変更「外部サービス利用型」に転換する事で、支援の時間が増え、ユニット会などを新たに導入し利用者の声に耳を傾けることができたと考えます。加えて、ケース会に世話人にも参加して頂き、利用者の状況や支援の内容を共有することができました。互いを知る作業は、共に助け合う自治を生み出し自律のできるグループホームに少しずつ変化してきていると捉えています。

グループホームの地域ニーズとして、施設入所や医療からの地域移行への受け皿となる必要がありますが、身体障害を持たれている方は今までの生活スタイルを重要視し共同生活を希望される需要は低く、知的・精神の障害を持たれている方の需要が増加傾向にあります。当施設は市街地より離れており、交通の便等不便なところではありますが、バリアフリーやマンションタイプの設備を保有し、月極駐車場の新設に伴い自家用車での移動が可能となるなど、障害特性に合わせた環境を提供することができる事が強みと考えています。来年度も、この強みを活かし様々な障害特性に対応できるグループホームを目指して取り組んでいきたいと考えています。

放課後等デイサービスキュール

■2021 年度利用者状況を可視化（登録者数 37 名）



利用終了者（9名）

高校卒業	就労A型	1
	就労B型	1
	生活介護	3
	その他	1
部活動への取り組み		1
成長に伴い利用終了		1
他事業所へ移行		1

知的障害をベースに発達障害、強度行動障害、身体障害など重複した障害を持った児童が多く通所されています。小学生が半数近くを占めており、学習支援やハビリの自然を活かした活動を取り入れ療育を行っています。成長と共にクラブ活動への参加ができるようになったり、高校卒業では児童に合ったそれぞれの活躍の場所へ繋ぐことができました。

■新規利用児の傾向（今年度新規利用児 3 名）

3名とも小学1年生で、学校入学と共にサービスの利用を開始。3名中2名の方は5日/週、1名の方も2日/週利用をしてくれております。

■新規相談で利用に繋がらなかった理由

週1回の利用や送迎調整などが難しいケース、見学後保護者との連絡が取れず、利用に至らなかったケースが1件あります。

■2021 年度の事業目標達成度を評価 『他にない新たなサービスの創出を行います』

■他事業との連携

アビリンピックへの参加(外部講師依頼)、カキ氷の販売等を行うが、下期の就労現場への参加に関しては、コロナ流行等による制限から未実施となった。

■職員の専門性獲得

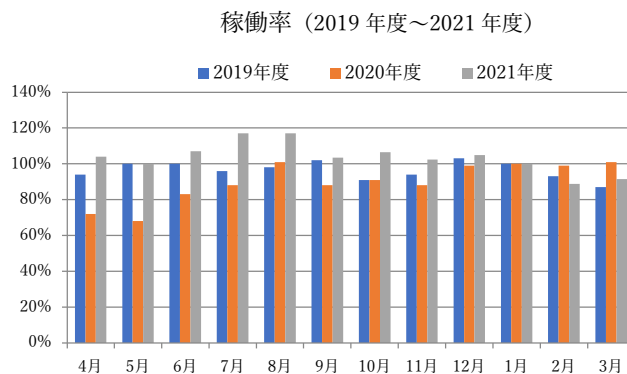
前年度は9件の研修参加であったが、今年度は14件の研修へ参加を行う事ができ、職員のスキルアップを目指した。また、担当者会等への参加は現場職員数との兼ね合いもあり、当初の想定よりも参加に苦慮し現場職員の参加は4~5件程度であった。

■チームとしての支援

職員の事務作業、伝達ミス0を目指し、各職員がアイデアを出しあい、新たに変更記録表や日報の様式一新によって食事インシデント件数は今年度4件、月の食事変更ミスは0~1件と大幅な減少傾向になっている。

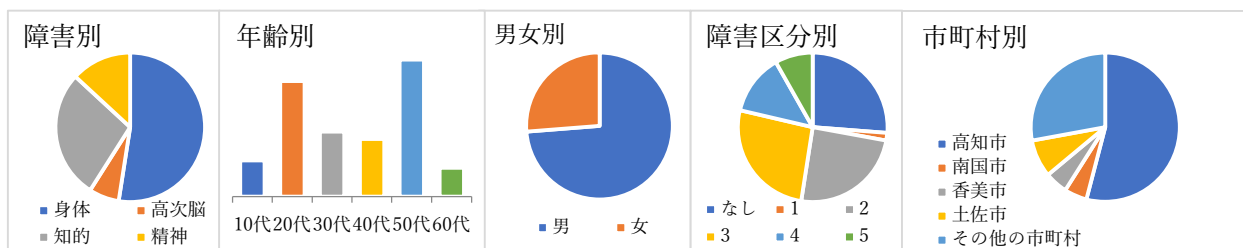
■総括

今年度は毎月稼働率が100%を超えており、過去3年の中で最も高い数字です。日々の業務の見直し、開所時間変更やケース会、研修参加などを目標に取り組み、能力の向上、事務作業の軽減を行いました。しかし、配置可能な有資格者1名減、個別対応児の増加、下期には児発管の長期不在及び復職後の児童支援への制限により現場職員1名減等、直接児童を支援する職員に対するの負担が大き一年となりました。



相談支援事業所

■2021年度利用者状況を可視化（登録者 61名）



相談支援専門員1名が61名を担当し、障害のある方が地域で安心して生活ができるために必要なサービスを調整しています。特に身体障害者が多く、様々な年齢層、障害区分も軽度から重度と多様なニーズに対応しています。支給決定市町村との連携も、高知市、南国市、土佐市が多いですが、遠くは土佐清水市や田野町なども調整も行っています。

■関わったサービス提供事業所

居宅介護：8、生活介護：4、GH：3、B型：3、移動支援：3、施設入所：2、デイケア：2、短期入所：1、就労移行：1、就労定着：1、生活訓練：1、機能訓練：1、訪問看護：1、訪問リハ：1

■新規利用者の傾向（7名）

サービス内訳 入所+機能訓練：2名、就労定着：2名、就労移行：2名、放デイ：1名
 障害の内訳 身体3名、高次脳1名、知的1名、難病1名、児1名
 当センターのサービス利用者が6名、セルフプランからの依頼が1名でした。

■終了利用者の傾向（事業休止による終了を除く）：5名

- ・利用サービスの有期を迎えた為（就労定着：1名、就労移行：1名）
- ・当センターのサービス終了に伴い、身近な支援者や地域にある相談支援事業所の利用が良いと考え引継ぎ（GH+生活介護：1名、生活介護+居宅介護+移動支援：1名）
- ・入院治療に専念する為、福祉サービスの利用が終了となった為（入所+機能訓練1名）

■事業所見学

B型：6、放デイ：5、GH：2、地活：2、A型：1、デイケア：1

■2021年度の事業目標達成度を評価 『支援の力をひとつにし、自分らしい生活』を支えます！』

■一人ひとりの自己実現をサポート

時間軸を意識しカレンダー式の表や話し合い後のケースの進め方について視覚的に提示
 自己選択が出来るよう社会資源の情報提供や見学・体験を実施（見学先：17事業所）

■相談支援の質の向上

コロナ禍においても ZOOM 等を活用し必要な担当者会やカンファレンスは全て実施
 モニタリング時期を増やし、より細やかな支援を意識して関わる事が出来た。
 障害児ケースについて、障害児の相談員や児発管、行政等に相談、事業所の見学、受診同行等を行い支援の質向上に努めた。

■効率的な業務の継続

スケジュールに沿って業務を実施
 ケースが動くタイミングで、その都度、上長に報告し、支援方針、進捗を相談出来た。

■総括

昨年度に引き続き、計画的に業務を行った事で、計画作成や担当者会を滞りなく実施出来、本人のニーズに合わせて社会資源の情報提供や見学を行うとともに、必要に応じたモニタリングやカンファレンスを実施し、本人の自己実現や自己決定へ繋げていく事が出来たと思います。

目標としていた『支援を一つの輪として繋げる』については、各支援機関の支援が計画通りに進まない中で、支援内容や方向性を取りまとめる事が出来なかった事が反省点として挙げられます。

来年度に向けた事業所の方針で、今年度末で相談支援事業を休止する事となり、2022年1月からの3ヶ月は他事業所への引継ぎ業務を主に行いました。利用者の意向を伺い、利用者にあった相談支援事業所の見立てと丁寧な情報提供等を心掛け、大きなトラブル無く引継ぎを行う事が出来ました。再開を望まれる声も多数聞かれましたので、状況を見て検討していければと考えます。

安全衛生委員会の取り組み

■総括

定期的な安全衛生委員会により作業管理、作業環境管理、労働衛生の確認をして頂き適宜ご指導を頂きました。12月に100回目を迎え、継続した取り組みの大切さを改めて感じた1年でした。今年度も体調不良者に対する早期の対応で、利用者、職員ともにコロナ、インフルエンザともに感染0で終える事が出来ました。

■安全衛生委員会

・実施状況

	実施日
第1回	2021年 4月15日
第2回	2021年 5月20日
第3回	2021年 6月17日
第4回	2021年 7月15日
第5回	2021年 8月19日
第6回	2021年 9月16日
第7回	2021年10月21日
第8回	2021年11月18日
第9回	2021年12月16日
第10回	2022年 1月20日
第11回	2022年 2月17日
第12回	2022年 3月29日

- ・実施内容
 - ・職員の健康状況（感染症・メンタルヘルス含む）を報告し必要に応じて助言を頂いた
 - ・前回指摘事項に対する改善状況を報告
 - ・安全衛生に関する資料や情報提供
 - ・施設内巡視



■体調不良者状況

インフルエンザ	0名
ノロウイルス、疥癬、風疹	0名
メンタルヘルス	0名
労災	0名
PCR検査（陰性）	職員：10名、家族：10名、利用者：5名
コロナ抗原検査（陰性）	職員：4名、家族：17名、利用者：15名

※ 県外への外出については、県外移動申請書を提出し承認を得て実施。
外出後2週間は体調チェックを実施

2022年度へ

- ・毎日の体調確認と感染対策を行い、利用者・職員ともに健康を維持し事業運営を行っていきます。
- ・安全衛生委員会を定期的開催し、必要に応じて改善を行っていく事で作業環境の整備に努めます。

感染対策委員会の取り組み

■総括

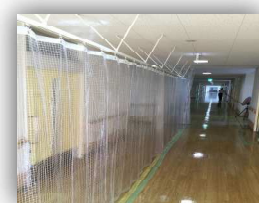
新型コロナウイルス感染症対策を中心とした標準予防策の徹底を継続することで、インフルエンザを含む感染症の発生は年間を通して見られませんでした。また、全職員で換気、消毒を毎日行うことも、感染防止できた要因と思われます。

■実施状況

	実施日
第 1 回	2021 年 4 月 22 日
第 2 回	2021 年 5 月 27 日
第 3 回	2021 年 6 月 24 日
第 4 回	2021 年 7 月 22 日
第 5 回	2021 年 8 月 26 日
第 6 回	2021 年 9 月 23 日
第 7 回	2021 年 10 月 28 日
第 8 回	2021 年 11 月 25 日
第 9 回	2021 年 12 月 23 日
第 10 回	2022 年 1 月 27 日
第 11 回	2022 年 2 月 24 日
第 12 回	2022 年 3 月 24 日



2021 年度近森会グループ MVP 表彰受賞



コロナ感染対策：改修

■実施内容

- ① 1 回/月の感染対策委員会を開催
- ② 新型コロナウイルス感染対策の実施
BCP マニュアルの作成、各事業での感染症発生時のシミュレーションの実施
情報収集の取り方・个人防护具の着脱手順の実演・ゾーニングを行い、個室対応のシミュレーションを実施し、環境設定を行う
- ③ 体調不良の利用者・職員への対応
職員は毎朝の健康管理記入表に記入し健康管理を行い、体調不良の利用者様に対しては、早期受診を心掛け、有症状・発熱者の場合は個室隔離とし、スムーズに対応ができるように整えた
- ④ 感染対策マニュアルの改訂
感染対策マニュアルの改訂案を作成し、委員会等の協力を得て内容を検討した。医学的観点からの妥当性および施設の実態を踏まえた、実践可能であることを確認し改訂を実施
- ⑤ チェックリストの作成
施設における感染症の発生状況や感染管理体制の整備・状況、感染管理における課題等を明らかにするためチェックリストを作成

2022 年度へ

- ・引き続き感染対策としての標準予防策の実施を行います。
- ・感染症の発生を想定とした、業務継続に向けた計画等の策定、研修の実施、訓練（シミュレーション）の実地を行います。
- ・利用者様・職員が安心安全に活動できるよう様々な感染防止対策を講じていきます。

防災委員会の取り組み

■総括

2021年度は定期的に委員会を開催し災害対策に対しての話し合いができ、計画も立てることができたが、コロナの影響で実施できることに限りがあった。実施できた災害時避難訓練については職員・利用者ともにスムーズな誘導と避難ができ防災に対する意識定着が感じられた。この他BCPの更新に伴う備蓄品の確認と交換、職員に対しての消火設備・器具講習も簡単なものではあるが実施できた。

尚、今年度は甲種防火管理責任者新規講習の課程を委員2名が受講し修了済み。

■避難及び防災訓練

・実施状況

	実施日/訓練想定
水害訓練	2021年6月24日(木) ・日中(日中想定) ・グループホーム(夜間想定) ◆キュールは10月6日(水)実施(夕方想定)
地震火災訓練	2021年9月30日(木) ・施設入所(夜間想定) ・日中(日中想定) ・グループホーム、キュール(夕方想定)
消火・避難設備体験	2021年12月2日(木)・9日(木) 救命袋、消火栓、消火器体験等 ◆職員のみ
火災訓練	2022年3月10日(木) ・施設入所(夜間想定) ・日中(日中想定) ・グループホーム、キュール(夕方想定)

※三誠産業株式会社協力

■災害対策委員会

- ・実施回数：12回(2021年4月～2022年3月)
- ・実施内容：BCPの更新(5月、11月) 各訓練の計画、実施、振り返り
備蓄品の提供と補充

2022年度へ

- ・災害時に起こりうる状況を情報収集し、より実際の想定に近い形での避難訓練を計画、実施
- ・BCPの見直し、更新
- ・各委員の災害対策、予防についての知識を高める
- ・BLS研修の実施
- ・行政や春野地域との情報交換を行い、災害時の役割を考える

虐待委員会の取り組み

■総括

2021年度、定期的に委員会を開催、対応に関する困りごとや検討事項を上げていただきどうすればいい支援に繋がるのか検討することが出来ました。年末には障害福祉課と連携をとりファミリーユ高知全体で研修を開催する事が出来ました。また、令和4年度から虐待防止の更なる推進と身体拘束の適正化の推進のための取組が1年間の経過措置後に義務付けられることになり、マニュアルの見直しを実施し、より取組強化に努めました。

■虐待防止委員会

毎月1回（木）開催。事例検討実施。内容により障害福祉課と連携を取り対応実施。

■虐待防止研修

・実施状況

	実施日/訓練想定
虐待防止自己チェックシート配布 (第一回)	2021年 5月 ファミリーユ高知全職員対象
ファミリーユ高知法人虐待防止研修 (第二回)	2021年 12月11日 会場：高知県民文化ホール第6多目的室 時間：14:00～15:30 外部講師：障害福祉課 岡添 梓様 深木 守様

※研修に参加されなかった職員に関しては、当日の撮影した研修動画を視聴の上、研修報告書を作成し提出していただきました。



研修会の風景



研修会の風景

2022年度へ

- ・虐待防止の更なる強化のための取組が義務化されるため、虐待防止マニュアルの更新、周知徹底
- ・全職員を対象に年1回以上の研修会開催
- ・新人職員への虐待防止研修の実施
- ・身体拘束適正化検討委員会の強化、身体拘束の知識向上

ご意見・苦情

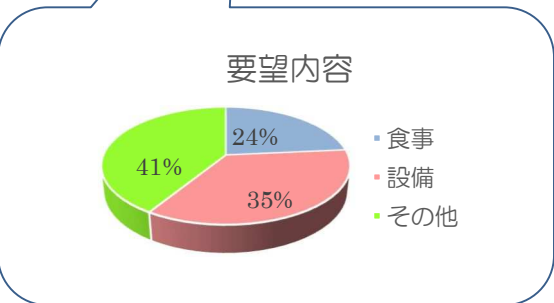
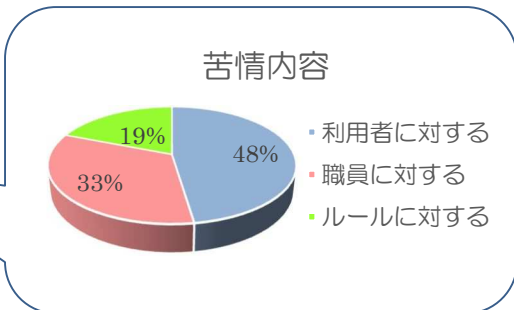
■ 総括

ハビリの4カ所にご意見箱を設置し、利用者の方々からの意見をまとめています。ご意見箱に投書された意見はサービス管理責任者によって定期的に回収し、迅速に問題解決に取り組み、ご意見に対する回答を掲示しています。昨年度と比較し、ご意見箱への投書は減少傾向にあります。サービス管理責任者へ直接相談に来てくださるケースは増加しています。相談窓口がサービス管理責任者になった事が定着したように感じています。

昨年は食にまつわるご意見等が多かったのですが、施設や設備に関するご意見、ご要望も少しずつ増えてきています。2021年度は、頂いたご意見に直接対話をして解決を計る等、要望内容に対して具体的な対応を心掛けました。今後も頂いたご意見をもとに検討を重ね、出来る限り要望に応え、利用者の満足につなげる努力を行っていききたいと思います。

■ ご意見箱の内訳

内容	要望	感謝	意見	不明	苦情	合計
2021年	17	0	7	7	21	52
2020年	26	2	6	8	29	71



- (利用者に対する)
 - 特定の利用者の言動に対するもの
- (職員に対する)
 - 特定の支援員のしぐさ・言動に対するもの
 - 職員の伝達が遅い
- (ルールに対する)
 - 利用者が利用者の車椅子を押してなぜダメか
 - 誕生日ケーキをなぜ辞めるのか

- (要望例)
- 職場にイオン発生器をつけてほしい
 - ユニット毎に予備のトイレトーパーがほしい
 - 食事キャンセルを改善してほしい
 - ホームに給茶機がほしい
 - 部屋にもっと荷物を持ってきたい
 - おでんが食べたい
 - お味噌汁に野菜を増やしてほしい

2022年度へ

- 苦情への適切な対応により利用者の満足度を高めることや、早急な虐待防止が講じられ、利用者の権利を養護するとともに、福祉サービスを適切に利用することが出来るよう支援に努めます。
- 苦情解決を密室化せず、社会や客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることにより利用者主体の質の高いサービスの確保、及び支援に努めます。
- 第三者評価を導入し、課題を把握する事でサービスの質の向上に繋がります。

職員採用・教育・監査

■総括

職員総数は63名（2022年3月末）で、新規職員採用は14名、退職者は12名（2020年度は入職12名、退職9名）です。新規採用職員には採用後教育として約3ヶ月間の社福全体の事業実務研修を行い、適性に合った配属を行い、配属後は配属部署にて新人教育計画に基づいて新人教育を行っています。入職した職員の持っている能力が発揮できるよう、教育担当スタッフ中心に丁寧な指導にあたっています。

■職員状況

職員総数（63名）	
センター長	1名
副センター長	1名
部長	2名
主任	6名
サビ管	5名
相談支援員	1名
支援員	27名
パート職員	20名

■入・退職状況

入職者		退職者	
正規職員	2名	正規職員	6名
臨時職員	2名	臨時職員	1名
パート職員	10名	パート職員	5名
合計	14名	合計	12名

■採用後教育

- ・ハビリテーリングセンター9事業+法人本部+ウェブの実務研修
- ・研修終了後には研修発表会実施
- ・配属部署には教育担当職員を配置
- ・配属部署にて業務課題チェック表作成（1・3か月時に振り返り面接実施）
- ・半年経過時に個人目標管理シート作成

■資格の取得

資格取得者			
介護福祉士	精神保健福祉士	サービス管理責任者	クリーニング師
藤岡 英次	坂上 博子	谷岡 真代	恒石 美佐子

■職員研修

- ・別紙「2021年度研修一覧」にて実績を示す

■監査

- ・行政監査実施なし（サビ管を中心に内部監査システム稼働開始）

学生実習

■総括

- ・高校生のインターンシップ実習から専門学校における臨地実習を引き受けました。
- ・専門学生の実習には、臨床実習指導者認定者を担当として丁寧な指導にあたりました。
- ・個人情報等の取り扱いは、事前に十分説明を行い同意書を交わして実習に臨みました。
- ・コロナ禍の為、実習先の確保が困難な中、出来るだけ受け入れを行いました。受け入れに際しては体調や県外への移動の有無等を確認して実施し、状況によりやむなく中断した実習もありました。

■実習受け入れ一覧

	学校名	実習内容	延日数	人数
1	近森病院附属看護学校3年生	在宅看護	15日	37名
2	近森病院附属看護学校2年生	小児看護	20日	43名
3	高知中央高校看護学科専攻科	在宅看護	27日	24名
4	高知東高校看護学科	基礎看護臨地実習	1日	23名
5	土佐リハビリテーション学校	作業療法学臨床実習	82日	3名
6	高知リハビリテーション専門職大学	作業療法学臨床実習	5日	2名
7	春野高校	インターンシップ	2日	10名

地域交流委員会の取り組み

■総括

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で、秋祭りをはじめとする春野地域との交流に関するイベントの多くは中止を余儀なくされました。そのような中でも昨年度は行えなかった年末のお餅つきや年始の絵馬など、感染症に配慮した形で再開することができたイベントもあります。提灯アートや竹あかりイベントに関してはファミリー高知全体で実施することができ、近森会の広報誌ひろっぱにも掲載され、当法人の取り組みを多くの方に知っていただく機会となりました。

■開催イベント一覧

実施日時	イベント名	内容
4月	端午の節句	鯉のぼり飾り
6月21～23日	スタンプラリー	ゲーム・景品
7月7日	七夕イベント (どっちの料理ショー)	選択メニュー（ゴーゴーカレーor 味噌カツ丼） アイスクリン、七夕飾り
7～8月	暑気払い	ソフトクリーム提供
9月～11月	提灯アート展	提灯のデザイン、展示
10月22日	ハビリ美化活動	全事業の代表者がハビリ全体を清掃
11月3日	テイクアウトイベント 内ノ谷秋祭り	イベント食提供、鯉の薫焼きたたき 提灯アート表彰式、内ノ谷秋祭り参加
12月29日	お餅つき	餅つき体験、餅の振る舞い
1月4～17日	絵馬	絵馬の作成、展示
1～2月	竹あかりイベント	デザイン、作成、展示
2月～3月	ひな祭り	ひな人形の飾りつけ



内ノ谷秋祭り



お餅つき



竹あかりイベント

2022年度へ

- 季節感のある定期イベントは継続して実施します。
- マンネリ化しないようメインとなるイベントは発展、または別企画を準備します。
- コロナ禍でも地域住民と繋がる機会を模索します。

栄養委員会の取り組み

■総括

今年度もコロナ感染症が蔓延する中、利用者に安心して施設の食事を提供するための取り組みを行いました。

■実施状況

	実施日
第 1 回	2021 年 4 月 20 日
第 2 回	2021 年 5 月 18 日
第 3 回	2021 年 6 月 15 日
第 4 回	2021 年 7 月 20 日
第 5 回	2021 年 8 月 24 日
第 6 回	2021 年 9 月 21 日
第 7 回	2021 年 10 月 19 日
第 8 回	2021 年 11 月 30 日
第 9 回	2021 年 12 月 21 日
第 10 回	2022 年 1 月 18 日
第 11 回	2022 年 2 月 22 日
第 12 回	2022 年 3 月 15 日



～ takeout イベント ～



■実施内容

① 感染症予防に配慮した食事の提供

県内の感染者数の状況に応じ、通所利用者の昼食場所を分散し利用者の密集を避けることにより、感染防止を行いました。

感染症発生時の対応の一環として、食事の席を指定し行動履歴を把握できるような体制を整備しました。

② コロナ禍でのイベント食実施

毎年恒例となった春と秋のテイクアウトイベントに加えて、今年度は初冬に釜めしを提供し温かい食事と外食気分を味わっていただきました。

③ 非常食の計画消費

施設で備蓄していた非常食(アルファ米・野菜ジュース等)を期限前に計画的に消費しました。提供の前には、利用者に告知と非常食の情報提供も併せて行うことで、日ごろから食べ慣れた物を消費しながらストックしていくことが必要であることを知っていただく機会となりました。

④ 厨房機器の保守管理

施設の開設から 10 年以上が経過し、厨房機器のトラブルが多くなってきております。正しく安全に機器を取り扱うことはもちろんのこと、小さなトラブルについてもメンテナンス会社と情報の共有を行うことで、異常の早期発見を行っていくことで、機器の耐用年数の延伸に努めていきます。

2022 年度へ

- ・食に関する情報の提供や利用者のニーズに応じた取り組みを行っていきます
- ・コロナ禍でも楽しめる食事を定期的に企画します
- ・障害者支援施設として、訓練的な要素のある食事の提供や社会的な関心へも目を向けていきます
- ・給食委託会社であるエームサービスとの連携を図り、質の高い食事の提供を継続します

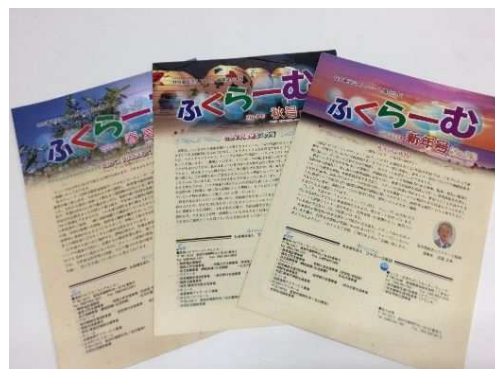
ふくら一む委員会の取り組み

■総括

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、秋祭りなどの大きなイベントは中止となりました。しかし、各事業コロナ渦の中でも工夫を凝らした取り組みをされており、広報誌も充実した内容を載せることができました。今年度は利用者にも多くスポットをあて、各々が頑張っている姿を取り上げることが出来たと思います。

■委員会開催一覧

実施月	内容	実施月	内容
4月	春夏号記事確認、秋号記事提案	10月	新年号記事提案、確認
5月	//	11月	新年号記事確認
6月	春夏号完成、秋号記事提案、確認	12月	//
7月	秋号記事最終確認	1月	新年号完成、1年振り返り、春号記事確認
8月	秋号記事最終確認、新年号記事提案	2月	春号記事提案
9月	// 秋号完成	3月	//



■ふくら一む委員会

実施回数：12回（毎月1回）

実施内容：掲載記事の打ち合わせ

発行部数：春夏号600部、秋号600部、新年号500部

内関係機関発送部数：各号200部（学校、医療機関、行政機関、事業所、福祉サービス事業所他）

2022年度へ

- 読む人が笑顔になるような記事を掲載します。
- 年3回の発行を継続し発送先においても精査し、広く広報誌を知っていただくように努めます。
- 定期的な委員会活動を行い、記事の提案や情報共有を行っていきます。
- 新たな取り組みや、頑張っている人にスポットをあて、楽しい紙面づくりを目指します。

事故報告

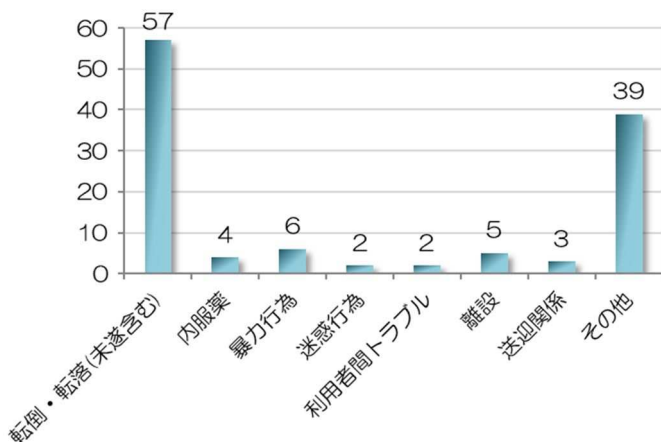
■ 総括

各事業で提出された事故やインシデント・アクシデント報告の検証を行い、リスク回避が出来るように努めています。利用者に影響がなかったインシデント 118 件・アクシデント 9 件で、事故レベル 3 はキュールの特定児童の物損事故と利用者間同士でのトラブル 2 件です。事故レベル 4 では、転倒による骨折が 8 件報告されています。特にグループホームでの転倒骨折が増えています。転倒に至った利用者は 60 歳代の高齢者であり、身体機能の低下によるものと評価しています。いずれも病院受診と継続治療で後遺症等なく回復されています。

■ 事故発生状況

事故レベル	事故レベル定義	障害者支援施設	アルパーテ	はるのハビリホーム	キュール	法人本部	その他	全体
0~1 (インシデント)	ヒヤリ・ハットすることはあったが利用者に影響はない 何らかの可能性があり経過観察の結果影響はない	63	26	8	17	3	1	118
2 (アクシデント)	医療機関への受信が必要となった 受診の結果、縫合や固定処置などは必要なかった	2	2	5	0	0	0	9
3 (事故)	受託先や発注先とのトラブルやクレームに対して謝罪や弁償を行った。利用者間同士でのトラブル	0	1	1	2	0	0	4
4 (事故)	事故のため通院治療や長期にわたり治療や入院が必要となった	2	2	3	1	0	0	8
5 (事故)	事故が死因となった 自傷・他傷（自殺企図や暴力）にて病院受診となった	0	0	0	0	0	0	0

■ インシデント 118 件の内訳



【転倒の分析】

- ・転倒未遂の報告は 9%
- ・転倒の約 5 割が居室か廊下、約 2 割が屋外
- ・車椅子利用者の転倒は移乗時が約 8 割
- ・自立歩行者の約 7 割が支援時間外に転倒
- ・就労利用者は環境要因の変化で転倒発生
- ・転倒経験者の約半数は再転倒し、複数回繰り返す

【対策】

- ・ヒヤリハットの時点で転倒予防対策を講じる
- ・車椅子利用者は居室の移乗動作練習、福祉用具の選定、環境調整を密に行う。
- ・自立歩行者の利用者は生活場面や施設間の移動を再評価し転倒を予防する。
- ・就労の利用者はイレギュラーを未然に防ぐことが転倒予防に繋がる。
- ・転倒は初回発生時にしっかりと対策するとともに、その他の場面での転倒も予見する。

2022 年度へ

- ・事故等発生時において適切かつ迅速な対応をとるとともに、事故等の発生要因や再発防止策の実効性を検証し、利用者等に対するサービスの質の向上及び施設等の運営の適正化に努めます。

2021年度職員研修一覧

2021年4月1日～2022年3月31日

出張				
日時	出張内容	主催	参加者名	
2021/11/18～19	リハビリテーションケア合同研究大会兵庫2021	一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会 他5団体	島崎義広、笠松早由、橋本竜太、田村亨介	
市内研修				
日時	研修内容	主催	参加者名	
1	2021/4/14 地域移行戦略会議	高知市	西岡センター長	
2	2021/4/21 高知市相談支援事業所連絡会	高知市障害福祉課	半田明日翔	
3	2021/5/12 地域移行戦略会議	高知市	川瀬佐織	
4	2021/6/9 地域移行戦略会議	高知市	川瀬佐織	
5	2021/6/18 高知市相談支援事業所連絡会	高知市障害福祉課	半田明日翔	
6	2021/6/24 感染症予防基礎研修	社会福祉法人高知県社会福祉協議会福祉研修センター	徳廣知与	
7	2021/7/3-17, 8/7, 10/2-9-16-23-30, 11/6 失語症者向け意思疎通支援者養成研修	高知県言語聴覚士会	日野麻実	
8	2021/7/14 地域移行戦略会議	高知市	川瀬佐織	
9	2021/7/20 医療職との連携	社会福祉法人高知県社会福祉協議会福祉研修センター	吉野竜二	
10	2021/7/26 介護者が受けるハラスメント	社会福祉法人高知県社会福祉協議会福祉研修センター	徳廣知与、久保内幸彦	
11	2021/7/27,28,30 就業基礎研修	障害者職業センター	島内文策	
12	2021/8/16～8/18 クリーニング職員研修	しごと・生活サポートセンター ウェーブ	中山彩香	
13	2021/8/2～5, 10～13 クリーニング職員研修	しごと・生活サポートセンター ウェーブ	元木智之	
14	2021/8/30 高知市相談支援事業所連絡会	高知市障害福祉課	半田明日翔	
15	2021/10/8 サービス管理責任者基礎研修	高知県	谷岡真代	
16	2021/10/19 就労支援実践研修	障害者職業センター	坂上博子	
17	2021/10/22 高知市相談支援事業所連絡会	高知市障害福祉課	半田明日翔	
18	2021/11/5 農福連携研究会		西岡センター長	
19	2021/11/15～16 サービス管理責任者基礎研修	高知県	谷岡真代	
20	2021/11/17 地域移行戦略会議	高知市	川瀬佐織	
21	2021/12/8 地域移行戦略会議	高知市	川瀬佐織	
22	2021/12/16 高知市相談支援事業所連絡会	高知市障害福祉課	半田明日翔	
23	2021/12/22, 23 サービス管理責任者実践研修	高知県	瀧石公正、川瀬佐織、安岡航	
24	2021/12/23 高知県福祉・介護者手職員研修及び交流会	高知県介護福祉士会	谷口東那	
25	2022/1/12～13 甲種防火管理責任者講習会	防火・防災協会	柏木雷太、徳廣知与	
26	2022/1/13, 2/8, 3/1, 3/29 相談支援従事者現任研修(一部オンラインに変更)	高知県	半田明日翔	
27	2022/1/30 クリーニング研修(通信へ変更)	(公財)高知県生活衛生営業指導センター	徳石美佐子、半田明日翔	
28	2022/2/16 高知市相談支援事業所連絡会	高知市障害福祉課	半田明日翔	
オンライン				
日時	出張内容	主催	参加者名	
1	2021/5/24 令和3年度研修会 ウィズコロナ・アフターコロナ時代の社会福祉法人	高知県社会福祉法人経営者協議会・高知県社会福祉法人経営者青年会	西岡センター長、中井有里、島崎義広、瀧原亮平、大上美登、吉野竜二	
2	2021/6/18 中四国ブロック施設長会		西岡センター長	
3	2021/7/15 高知県高齢者・障害者 虐待防止・権利擁護(施設長・管理者)研修	高知県 社会福祉法人高知県社会福祉協議会	西岡センター長、吉野竜二	
4	2021/7/17-18 ベアレントトレーニング指導者育成セミナー	高知県	清藤圭祐	
5	2021/8/4 ほおっちゃん相談窓口 研修	高知市地域共生社会推進課	半田明日翔、瀧原亮平	
6	2021/9/18 頑張ってもうまいかない時の無理しない働き方	高知県療育センター	川瀬佐織、藤本佐和子	
7	2021/9/28 スキルアップ研修		中内海人	
8	2021/10/5 リスクマネジメント	社会福祉法人高知県社会福祉協議会福祉研修センター	川瀬佐織	
9	2021/10/16 苦情と理解と対応	社会福祉法人高知県社会福祉協議会福祉研修センター	笠松早由、村上美和、川瀬佐織	
10	2021/12/7 高齢者・障害者虐待防止、権利擁護(リーダー向け)研修		大高聡一郎	
11	2021/12/23 福祉職場の中堅職員ファーストステップ研修	高知県社会福祉協議会	中内海人	
12	2022/1/18 勉法高齢者・障害者の支援を考える勉強会	高知弁護士会法律事務所委員会	藤本佐和子	
13	2022/1/28 高次脳機能障害者支援地域研修会	高知県子ども福祉政策部	藤本佐和子	
14	2022/2/18 アンガーコントロール研修	高知県療育センター	橋本竜太	
15	2022/2/19,20 社会福祉士実習指導者研修	一般社団法人 高知県社会福祉士会	半田明日翔	
内部研修				
日時	研修内容	講師	参加者数	
1	2021/4/8 施設入所 BLS研修			
2	2021/4/20 キュール部内研修「ベアレントトレーニングについて」	杉本晃亮吾	キュール職員6名	
3	2021/4/20 第1回 機能訓練勉強会「認知機能検査について」	生活・訓練部 機能訓練 瀬川支援員	14名	
4	2021/5/14 キュール部内研修「キュール支援内容について」	片岡支援員	キュール職員6名	
5	2021/5/18 第2回 機能訓練勉強会「失語症について」	生活・訓練部 機能訓練 杉本PT	14名	
6	2021/5/19 第1回元気塾	四国管財株式会社 中澤会長	8名	
7	2021/6/4, 6/15 嘔吐物処理研修	感染委員会		
8	2021/6/15 第3回 機能訓練勉強会「制度関係について」	生活・訓練部 機能訓練 日野支援員	12名	
9	2021/6/26 第1回 社会福祉法人ファミユ高知 支援の可視化プロジェクト 成果発表会	-		
10	2021年6月 第1回職員研修「リフレミング」	教育委員	各部署	
11	2021/7/14 キュール部内研修「ハビリにおける自立訓練のサービス内容について」	清藤支援員	キュール職員6名	
12	2021/7/20 第4回 機能訓練勉強会「立ち上がり動作の基礎について」	生活・訓練部 機能訓練 田村PT	10名	
13	2021/7/28 第2回元気塾	四国管財株式会社 中澤会長	8名	
14	2021/8/17 第5回 機能訓練勉強会「権利擁護について」	生活・訓練部 機能訓練 藤本サビ音	7名	
15	2021年9月 第2回職員研修「他己紹介」	教育委員	各部署	
16	2021/9/15 第3回元気塾	四国管財株式会社 中澤会長	7名	
17	2021/9/21 第6回 機能訓練勉強会「家庭訪問について」	生活・訓練部 機能訓練 島崎部長	11名	
18	2021/10/19 第7回 機能訓練勉強会「気分障害について」	生活・訓練部 機能訓練 瀬川支援員	13名	
19	2021/11/16 第8回 機能訓練勉強会「FIMIについて」	生活・訓練部 機能訓練 杉本PT	13名	
20	2021/11/24 第4回元気塾	四国管財株式会社 中澤会長	7名	
21	2021年12月 第3回職員研修「伝え方1」	教育委員	各部署	
22	2021/12/11 法人 虐待研修	高知市障がい福祉課 岡浜氏、深木氏		
23	2021/12/21 第9回 機能訓練勉強会「失語症者向け意思疎通支援者について」	生活・訓練部 機能訓練 日野支援員	12名	
24	2022/1/18 第10回 機能訓練勉強会「ICFについて」	生活・訓練部 機能訓練 田村PT	4名	
25	2022/1/26 第5回元気塾	四国管財株式会社 中澤会長	6名	
26	2022/2/15 第11回 機能訓練勉強会「カルテ記載について」	生活・訓練部 機能訓練 島崎部長		
27	2022年3月 第4回職員研修「伝え方2」	教育委員	各部署	
28	2022/3/15予定 第12回 機能訓練勉強会「社会保障制度について」	生活・訓練部 機能訓練 藤本サビ音		
29	2022/3/23 第6回元気塾	四国管財株式会社 中澤会長	5名	